Ⅲ 道徳科の授業改善のための Q＆A

教材を提示する工夫には、どのようなものがありますか？

解決のための手立て

読み聞かせの際、紙芝居の形で提示したり、影絵、人形やペープサートなどを生かして劇のように提示したり、音声や音楽の効果を生かしたりする工夫などが考えられます。

〔解説　小p. 84，中p. 83〕

このほかにも、プレゼンテーションソフト等を活用し、教材の内容をより捉えやすくするために場面絵を映したり、写真や動画を映して補足説明したりするなど、ＩＣＴを効果的に活用することなどが考えられます。

発達の段階や学級の実態によって、教材の内容を理解させたり、考えを深めさせたりするための工夫をするとよいでしょう。
また、「何のために工夫するのか」という、明確な意図をもって行いましょう。

【留意点】

- 「教材を学ぶ」のではなく、「教材を使って学ぶ」ということを意識させ、教材を活用することに必然性がもてるようにすることが大切です。
- 教材を学習指導で効果的に生かすには、登場人物の立場に立って自分との関わりで道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自己を見つめたりすることが求められます。

教材を扱う際には、教材の特質に応じた効果的な提示方法を考えましょう。

【教材提示の具体的な例】

教師が教材の全文を丁寧に読み聞かせる。

多くの授業で行われている教材提示の方法です。
扱う教材の内容をしっかりと理解させたいということから、臨場感ある抑揚をつけた読み聞かせや、効果音やＢＧＭなどを用いた読み聞かせなど、様々な工夫が見られます。

【留意点】

教材に児童生徒を浸らせることをあまり重視しすぎてしまうと、自分との関わりで考える授業がしにくくなることも考えられます。

意図的に教材を分割して提示する。

教科書があるため、難しい提示の方法とは思われますが、教材を前半・後半などで分割して示す方法などがあります。

【留意点】

教材全ての情報をしっかりと与えた上で話し合わないと深く考えることができません。そのため、分割した内容ごとに、話合いをするような場合には注意が必要です。

教材のあらすじを紹介する程度で読み聞かせはしない。

教材を学ぶのではなく、教材で生き方を学ぶという意識が強くあり、児童生徒がある程度教材を理解でき、自分との関わりで十分話し合えるという状況であれば考えられる方法です。

【留意点】

児童生徒の実態や教材の内容に応じて行うようにします。

事前に児童生徒に教材を読ませて授業に臨む。

限られた時間の中で、可能な限り話合いや自己を見つめる時間を確保したい場合に行われることが多い方法です。

【留意点】

単に時間確保のためだけではなく、必ず、何を考えながら読むのか、視点を与えることが大切です。

いずれの方法も、教師の指導に意図がなく、教材を様々な方法で提示して児童生徒を混乱させてしまわないように注意しましょう！

児童生徒の本音を引き出すには、どのような工夫をすればよいですか？

解決のための手立て

日頃の学級経営を大切にし、児童生徒の実態に応じた発問を工夫するなど、丁寧な指導が必要です。

児童生徒から「分かっているけどできない」等の本音を引き出すためには、まず、日頃の学級経営が大切なことは言うまでもありません。学級に温かい人間関係があり、児童生徒同士、教師と児童生徒が共感的に理解し合えることが必要です。

学習を効果的に行えるようにするためには，学級内での信頼関係の構築が基盤となる。教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て，一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気を日常の学級経営の中でつくるようにすることが大切である。 〔解説 小p. 78〕

道徳科の指導は，よりよい生き方について生徒が互いに語り合うなど学級での温かな心の交流があって効果を発揮する。 〔解説 中p. 76〕

教師が心を開き誠実に語ることも大切です。その上で本音が出し合えるような指導の工夫をします。児童生徒が貴重な本音を語ってくれた際に、教師はその誠意ある言動に感謝する態度を示しましょう。

指導に当たって

道徳の授業では、葛藤場面で人間の醜さや弱さなどを児童生徒に理解させ、共感させることが大切です。

児童生徒は、「こうした方がいいと分かっているけれどできない」という経験を想起しながら、人間には醜さや弱さをもつ一面があることに気付きます。教師は、児童生徒に対してそれを人間らしさと認めた上で、「それでもよりよい生き方へと向かおうとすることが人間の素晴らしさである」と気付かせるような指導を行うことが重要です。

【指導の工夫例】

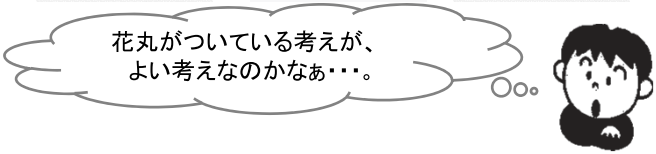
- 既に分かっている「正しいこと」やいわゆる「よいこと」の発言等に問い返しを行い、児童生徒が更に考える機会を設ける。
- 話すことが苦手な児童生徒への支援にもなることから、考える時間を十分確保し、自分の考えを書く活動を取り入れる。（本音だからこそ話しにくく、書くことなら表現できるという場合もある。）
- あえてできなかった経験や失敗した場面を問いかけるなどの工夫をする。
- ペア、小グループや全体での交流活動を行い、友達の考えを知ることで、自分の考えを比べたり広げたりできるようにする。
- 教師や友達の反応をうかがうなどして意見を出しにくい児童生徒には、「周囲を気にしなくても大丈夫」というメッセージを伝える。

【留意点】

教師が何気なく行っていることが、児童生徒の本音を出しにくくしていることもあります。授業の進め方をはじめ、板書、掲示物、ノートやワークシート等にも注意しましょう。

教師がねらいとする道徳的価値を意識するあまり、それに沿わない児童生徒の意見を充分に受け止めず、「他にありませんか」などと授業を進めてしまっていませんか？

授業の中で、特定の価値を認めたり、褒めたりするコメントをしてしまっているようなことはありませんか？



板書は、どのように工夫するとよいですか？

〔総セ　中p. 10〕

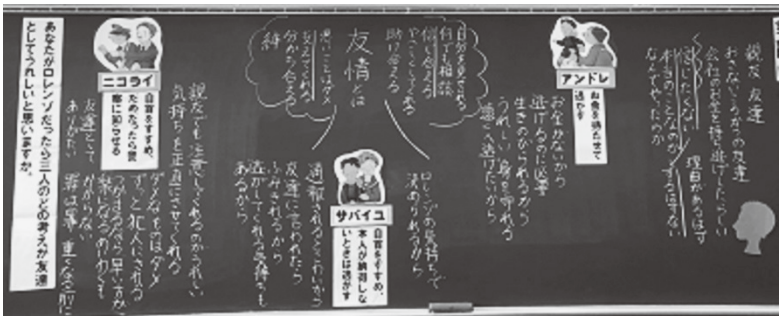
解決のための手立て

１時間の流れや発言を一目で見渡せるようにするなど、教師が明確な意図をもって構造的、対比的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫が考えられます。

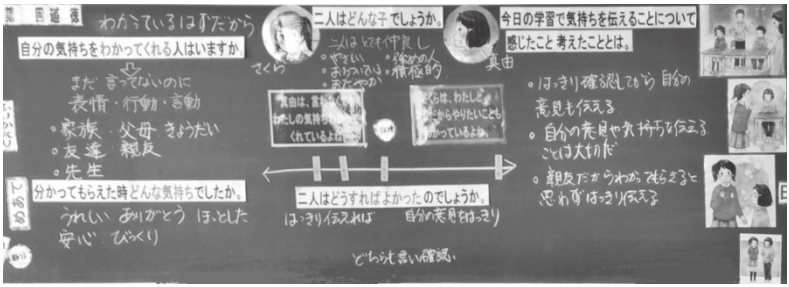
板書は、児童生徒が本時のねらいに迫ったり、思考を深めたりする重要な手掛かりとなる役割を果たすと考えられます。

学習内容や児童生徒の実態に応じた工夫をすることが大切です。

【板書の工夫例】

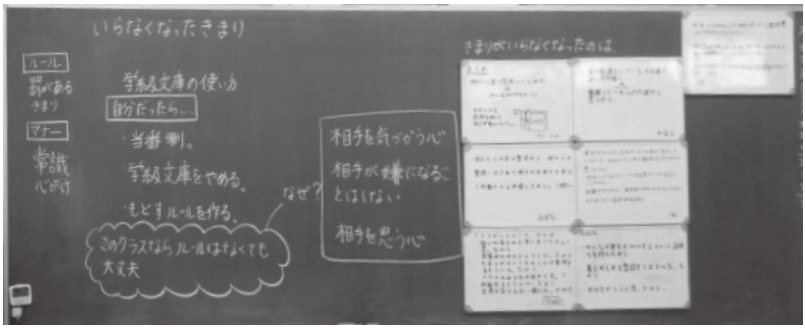


◆　登場人物ごとに意見をまとめながら示し、中心部に、授業で扱う道徳的価値に関する意見を示した構造的な板書の例（小学校第６学年）

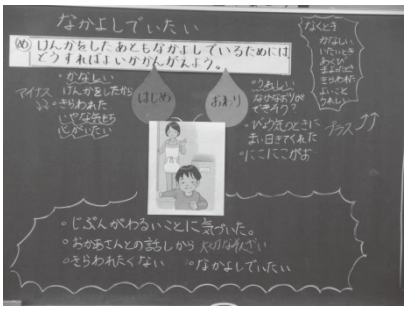


◆　授業の流れが一目で分かるとともに、心情を表すスケールを用いて対比する考えを示した例（小学校第４学年）

◆　ウェビングマップを生かしてまとめた例（小学校第５学年）



◆　左側に教材に関する板書、右側にグループで話し合った意見を書いたミニホワイトボードを提示した例（小学校第６学年）



◆　「はじめ」と「おわり」を対比させた例（小学校第２学年）

【発言の整理例】

- 一人一人の発言を示す。
- 複数の発言から似ている内容をまとめて示す。
- 複数の発言をまとめてキーワードで示す。
- 児童生徒の話し合った結果を示す。　など

児童生徒の発言は、板書に整理しながら示すことが効果的です。思考の可視化を図りながら、教師と児童生徒が共に板書を作りあげることを目指しましょう。

授業で使用するワークシートは、どのように工夫をすればよいでしょうか？

解決のための手立て

ワークシートは、児童生徒が記入する内容等を想起しながら、本時のねらいを達成するための内容となっているか考えながら作成することが重要です。

ワークシートでは書く活動が中心となりますが、学習指導要領解説では、第４章指導計画の作成と内容の取扱い３（４）エに、次のように示されており、配慮することが求められます。

〔解説 小p. 85，中p. 84〕

> 書く活動は，児童（生徒）が自ら考えを深めたり，整理したりする機会として，重要な役割をもつ。この活動は必要な時間を確保することで，児童が自分自身と（生徒は自分なりに）じっくりと向き合う（考える）ことができる。

> 学習の個別化を図り，児童（生徒）の感じ方や考え方を捉え，個別指導を行う（進める）重要な機会にもなる。

また、道徳ノートについても次のように示されています。

> 一冊の（一冊にとじられた）ノートなどを活用することによって，児童（生徒）の学習を継続的に深めていくことができ，児童（生徒）の成長の記録として活用したり，評価に生かしたりすることもできる。

ワークシートや道徳ノートを単に評価のためのものと思っていませんか？

ワークシートは、児童生徒が、自分自身のものの見方、考え方、感じ方などを確かめたり、まとめたり、記録に残したりすることや、振り返ったりするためにあるということを意識することが大切です。

さらに、友達の考えや意見などを書き込ませるなどの工夫を行い、多面的・多角的に考えさせるようにします。

多面的・多角的に考えたり、自分の生き方についての考えを深めたりするために、具体的な配慮の例として、次のようなことが考えられます。

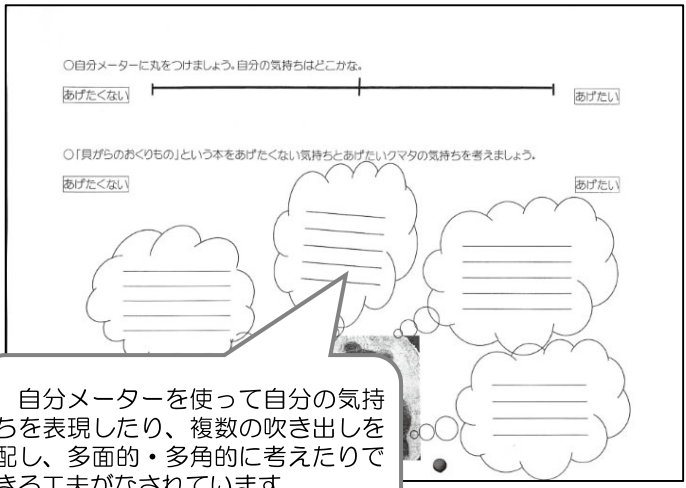
- 本時で使用する教材等に応じて工夫する。
- 児童生徒の発達の段階に応じて記入する分量を調節する。
- 児童生徒が繰り返し使用でき、自分の考えなどの変容が分かるよう工夫する。
- 文章で記述することが苦手な児童生徒に配慮する。

など

その他、教科書に対応したワークシートや「私たちの道徳」などを利用するときも、授業を行う学級の児童生徒の実態に合っているか検討しましょう。

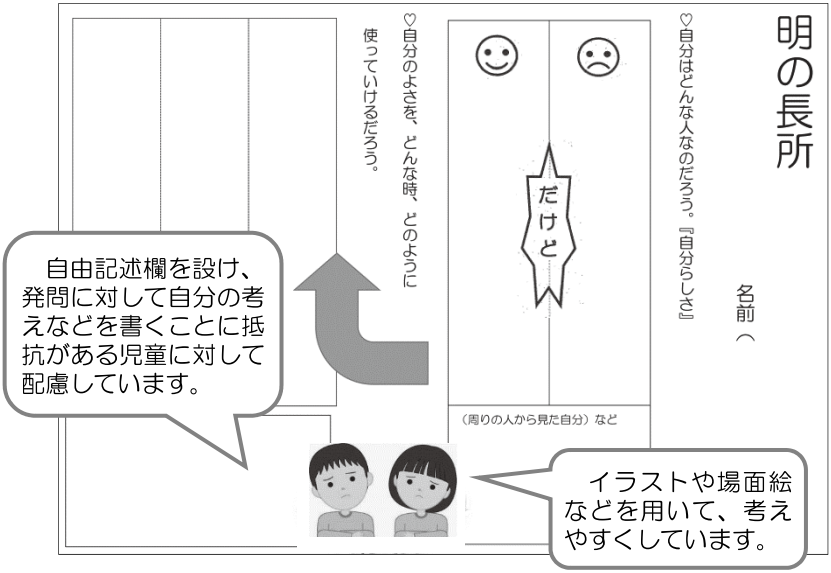
【ワークシートの工夫の例】

＜小学校中学年の例＞

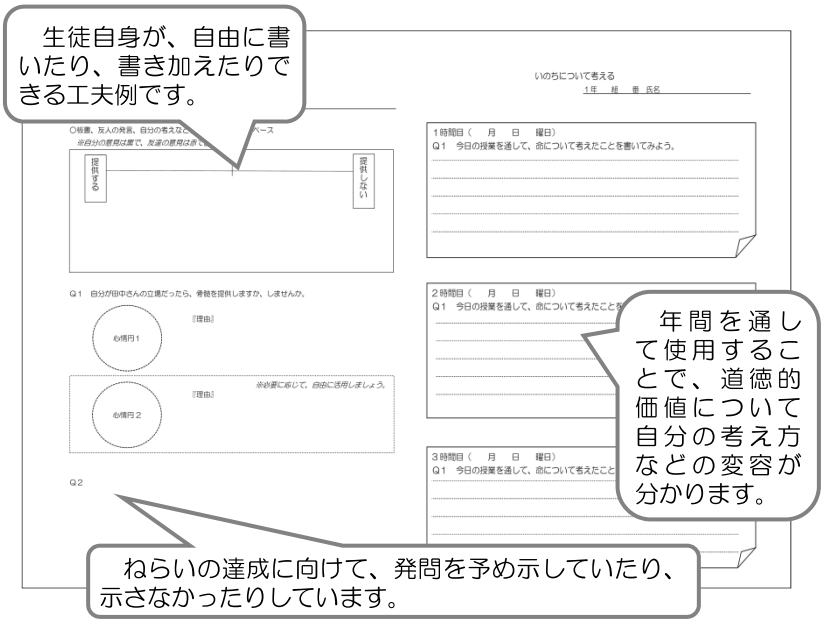


自分メーターを使って自分の気持ちを表現したり、複数の吹き出しを配し、多面的・多角的に考えたりできる工夫がなされています。

＜小学校高学年の例＞



＜中学校の例＞



【留意点】

発問をすべて記入した、いわゆる一問一答形式のワークシートを、何のねらいもなく児童生徒に配布すると、教材から読み取って答えを書こうとしたり、求められているであろう答えを記入してしまったりすることがあるため、注意が必要です。

ワークシートの工夫においては、児童生徒自身が書くことのよさを実感できるようにすることが何より大切です。

ねらいの達成につながるワークシートを作成し、じっくりと考えて書く時間を確保しましょう。

子供たちがじっくり考えて書き込んだ言葉は、一人の人間の心の変容や成長の足跡であり、かけがえのないメッセージそのものです。
そうした想いに寄り添うことができる教師でありたいものですね。

ワークシートは家庭との連携を図るツールとして活用する方法もあります。

授業後には、保護者に意見や感想等を記入してもらうことで、授業の様子を把握してもらうとともに、家庭と協力して児童生徒の道徳性を育てることに生かすことも考えられます。

懇談などに用いて、話題にしてみるのもよいかもしれません。

道徳科における言語活動の充実を図った授業とは、どのような授業ですか？

解決のための手立て

多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実することが大切です。

さらに、中学校では、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、生徒が多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう留意することが求められています。

〔解説　小・中p. 93〕

【学習指導過程における言語活動を充実させるための活動例】

導入	・　児童（生徒）の身近な生活体験や学校での共通体験を想起し、道徳的価値に対する今の時点での感じ方や考え方をペアで伝え合ったり、ワークシート等に書き留めたりする。
展開	・　自分の考えをしっかりと友達に伝え、友達の考えをしっかり聞き、また自分の考えをより明確にしていけるような学習が大切であり、学級全体で話し合ったり、ペアや少人数グループで話し合ったりする。 ・　話合いの後、より深まった自分の考えをワークシート等に書いて整理したり、客観的に見たりする。
終末	・　書く活動を取り入れる等の工夫により、学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題についてじっくりと考えられるようにする。

〔初等教育資料令和元年５月号の資料を参考に作成〕

【留意点】

- 児童生徒の考えを深め、判断し、表現する力などを育むためには、児童生徒が多様な感じ方や考え方に接することができるように、何について考えるのかを教師が明確に示す。
- 日頃から何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくるとともに、教師が受容的な姿勢をもつ。
- 自分とは異なった考えに接する中で自分の感じ方や考え方が明確になるなど、学習が深まるということを児童生徒に実感させる。

更に中学校では･･･

- 言語環境を整え、生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて、意図的、計画的に指導する。
- 言語活動を通して、互いの存在を認め尊重し、意見を交流し合う経験により、生徒の自尊感情や自己への肯定感を高めることを念頭に置き指導する。

【指導方法の工夫】

- 児童生徒が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合うことができるよう、ねらい、児童生徒の実態、教材や学習指導過程などに応じて、発問、話合い、書く活動、表現活動などを工夫する。
- 教材や体験などから感じたこと、考えたことなどをまとめ、話し合ったり、話合いなどにより異なる考えに接し、多面的・多角的に考え、協働的に議論したりするなどの工夫をする。
- 道徳的諸価値に関わる様々な課題について議論を行い、自分との関わりで考察できるような工夫をする。
- 自由に意見を述べ合える望ましい集団を育成するとともに、その実態に応じた指導方法を工夫する。

言語活動については、道徳科の授業だけではなく、教育活動全体を通して充実を図ることが大切です。